

銭湯のアカスリ、ずっと勃起してタオル突っ張らせてたら、タオル取っちゃいましょうかと言われておちんちん丸出しになった話

銭湯のアカスリに行った時の話だ。俺は事前に予約した通りにそこに入り、腰にだけ白いタオルを置いてベッドに仰向けになって待っていた。

「こんにちは。今日はよろしくお願いします」

扉が開き、女性スタッフが入ってきた。30代前半くらいだろうか。黒いシャツに黒のパンツ、髪はきっちりとまとめた可愛い人だった。

「それでは始めますね。まずうつ伏せになってください。力の加減はいかがですか？」

「普通で大丈夫です」

俺はうつ伏せになった、体制を変えるときにおちんちんがもしかしたら彼女に見えたかもしれない。彼女は温かいお湯で俺の背中を流し、首筋から肩へ、ゆっくりとアカスリを始めた。ゴシゴシという乾いた音が部屋に響く。皮脂と古い角質が灰色の塊になって落ちていく感触が、なんとも気持ちいい。

ところが、うつ伏せの状態でも、俺の下半身はすでに反応していた。彼女の手が腰のあ

たりを丁寧にくすり始めると、俺の体の下で
徐々に硬くなっていくのが自分でもわかる。